

論 文 要 旨

Clinical significance of alanine aminotransferase levels and the effect of ursodeoxycholic acid in hemodialysis patients with chronic hepatitis C.

〔 C 型慢性肝炎合併透析患者における ALT 値の
臨床的意義とウルソデオキシコール酸の効果 〕

西田 知夏

【序論および目的】

血液透析 (HD) 患者における HCV 抗体陽性率は高いが、HD 患者の C 型慢性肝炎 (CHC) の病態は十分明らかになっていない。また、HCV 陽性の HD (CHC+HD) 患者はインターフェロン (IFN) 治療困難例も多く、新しい治療法の検討も必要である。本研究では、CHC+HD 患者を対象とし、肝線維化の進行と関連する血小板数低下を指標としてその病態を検討した。また、ウルソデオキシコール酸 (UDCA: 300mg/日) で治療されていた CHC+HD 患者におけるその効果を検討した。

【材料および方法】

1. 2008 年 8 月までに 3 年以上継続して HD をうけ、IFN 治療及び UDCA 内服歴の無い HCV 抗体陽性かつ HCV RNA 陽性者 85 例 (CHC+HD 群) と HCV 抗体陰性者 154 例 (HD 群) の 2 群を用いて、血小板減少 (13 万/ μ l 未満) に関連する因子を検討した。また、CHC+HD 群 85 例を全観察期間中の ALT 値の平均値 (IU/ml) により、A: 15 未満 (30 例)、B: 15 以上 20 未満 (19 例)、C: 20 以上 30 未満 (18 例)、D: 30 以上 (17 例) の 4 群に分け、血小板数の推移を比較した。2. 2007 年 4 月以降に UDCA300mg/日が始まり、2008 年 11 月までに 6 ヶ月以上治療継続した CHC+HD 患者 16 例の臨床経過を検討した。

【結 果】

1. 約 5 年間の観察期間中に CHC+HD 患者の血小板数は HD 患者対照と比較して有意に低下し (変化率; -22.4% vs -5.3%, $P < 0.001$)、血小板減少 (13 万未満) には HCV 感染が独立した危険因子であった。さらに、A 群と比較し、B 群、C 群、D 群では血小板数は有意に低下し、ALT 平均値 15 以上は CHC+HD 患者における血小板減少の独立した危険因子であった。2. UDCA 非投与群では ALT 値は変化しなかったが、UDCA を投与した 16 例の ALT 値は投与 1 ヶ月後から有意に低下し、6 ヶ月後には ALT に加えて AST、 γ -GTP も投与前と比較し、有意に低下し、血小板数は減少しなかった。

【結論及び考察】

肝線維化の進展を反映する血小板数減少には、HD 患者においては HCV 感染、CHC+HD 患者では ALT 値（平均値 15IU/ml 以上）が独立した危険因子であった。また、UDCA は CHC+HD 患者の ALT 値低下に有効であり、インターフェロン治療の適応とならない CHC+HD 患者には UDCA による加療を考慮すべきと考えられた。

(Journal of Gastroenterology 2009 年掲載予定)